

## 滋賀県立近代美術館協議会(第32回)概要

1 開催日時：平成22年(2010年)12月9日(木)午前10時00分～12時15分

2 開催場所：滋賀県立近代美術館 会議室

3 出席者： 滋賀県立近代美術館協議会委員 9名

上野真知子委員 尾崎正明委員 北川邦之委員 北村優子委員 澤野二郎委員

瀬古祐嗣委員 山口育子委員 山添道子委員 三原サダ子委員

滋賀県立近代美術館事務局

秋山館長 菊井副館長 桑山総括学芸員 高梨学芸課長 伊藤総務課長

西川県民文化課課長

### 4 会議次第

(1)滋賀県立近代美術館 秋山館長 あいさつ

(2)議 事

会長の選出について

平成22年度事業実績について

滋賀県立近代美術館運営改善方針(素案)について

平成23年度事業計画(案)について

その他

### 5 概要

(1) 会長の選出について

委員の互選により、尾崎正明委員が会長に、辻喜代治委員が副会長に選出された。

(2)平成22年度事業実績について

#### 【委員】

日数にもよると思うが、自主企画と巡回展とでは開催にかかる経費はどちらが高いのか。

#### 【事務局】

仮に同じものを開催するとした場合、巡回展は、同じものを2回3回と開催するものであり経費の節減になると言えるが、白洲正子展のような大がかりなものは、元々の開催経費が高く、単体での自主開催は無理なので巡回展にならざるを得ない面もあるが、各館の負担金は高い。一方、自主企画であっても、コンパクトなものもあり、一概に経費が高いとは言えない。要するに、その内容とやり方にもよる。最近の傾向としては、経費節減の意味もあり巡回展が多くなる傾向にあるようだ。そういった意味で館と館とが連携して補完していくことが必要となる。

【委員】

観覧者数を増やすため、いろんな取組みをされておられるようだが、美術館に来る年齢層は、やはりリタイヤした中高年齢層が多いと思うが、今後、館としての年齢層のターゲットはどのへんになるのか。

【事務局】

展覧会にもよるが、一般的には中高年層の女性グループが多く、白洲正子展はまさしくそうであった。その一方、カーライ展では親子連れやファミリー層が、ロトチェンコやガリバーなど現代美術は比較的若い人が多かった。出光美術館コレクション展も日本画であり、中高年層が多かった。今後の対象としては、当然、中高年層が中心となるが、美術や美術館に親しんでもらい将来の観覧者となる子どもやその親の来館を増やしていきたい。

【委員】

今年、出光美術館コレクション展の「色と墨のいざない」や常設展の「赤と黒 - 色彩の実験」など色をテーマにして企画されたのはよかったのではないかと。色と墨のいざないというテーマであったが、無彩色と有彩色とに区分して展示されていると思ったがごっちゃになって展示されており多少がっかりした。コンサートの方もブラック・アンド・ホワイต์になっていたが、色についてもっと押し出した講演会もあってもよかったのではないかと。このようにいろんな角度からの企画を期待したい。

【委員】

学校団体（小・中・高校・養護学校）学校の観覧者数は記載されているが、それ以外の団体（会社関係など）はどのようなものがあり、またどのくらいの来館なのか。

【事務局】

一般団体としては、大学・専門学校、美術・文学などのカルチャー教室、美術館友の会、旅行会社のツアー企画の団体などあり、企画展だけで2,000人くらいであった。  
一般団体については、やはり旅行会社にツアーとして企画してもらうこととなるが、美術館単体では難しく、今回の白洲正子展がそうであったように、美術館で観覧して、そのゆかりの現地を訪れるということでたくさんの団体に来てもらった。その一方、ガリバー展では作家が本県出身でもあり関係者の集客を、カーライ展やロトチェンコ展では授業の一環として大学生等に観覧してもらうため大学等の教員へのアプローチを行った。

【委員】

学校団体への対応は、観覧料の免除以外に解説など特別な対応をやっているのか。

【事務局】

事前に各学校から申請してもらう際、希望日時以外に解説の希望を聞いて対応している。生徒の人数にもよるが学芸員だけで対応できない場合は、サポーターの方にも協力いただいている。（小学生の場合、6～7人に解説者は1人必要となる。）その後、学校に出かけていくというアウトリーチにつながることもある。

【委員】

先ほどから色の話など大変興味深く聞かせていただいている。ところで、美術館の一般的なターゲットとして、中高年齢層が対象となるのは分かるが、びわこ文化公園には小さい子どもを連れて遊びに来ることも多いのに図書館までである。子ども向けの企画がもっとあればと思っていた。また、小さな子どもを連れて親子、おじいさん、おばあさんが一緒に楽しめるものも検討してほしい。

【委員】

延べ56校の学校団体の鑑賞があるようだが、やはり県内南部の学校が多いのか。

【事務局】

56校の割合として大津、草津など近辺の学校の利用が多い。以前、バスを借り切って1日行程の社会見学として県庁などを見学して、その途中に美術館ということもあって、比較的遠くからも来館していた時期もあったが、美術館だけとなるとわざわざここまで来る必要はないということになる。

【委員】

滋賀県の小中学校だけなのか。他府県の学校に対しても団体鑑賞の働きかけをしているのか。

【事務局】

通常の広報としては、観覧料が無料となる県内の学校への働きかけとなるが、たまに、ホームページを見ての問い合わせも多くなり、少し前になるがヴォーリス展でキリスト教系の他府県の学校から来ていただいた。

(3) 滋賀県立近代美術館運営改善方針（素案）について

【委員】

運営の難しさは滋賀だけの問題ではなく、予算を立てる際、観覧者数を見込み収入を見積もるわけで、観覧者数が減るなどして収入が達成できないとやはり対応を求められる。そういったところから運営改善方針が出てきたのか。

【事務局】

そうである。毎年度、減額補正してきたが、平成21年度は大きな落ち込みとなった。

【委員】

いろんな観光コースを設定することはいいことであり、この夏、瀬戸内で行われた芸術祭は96万人の人がやって来て大成功している。当初、鑑賞するには船などを使って島々を巡らなければならないという不便さもあって、何人来るのか半信半疑であったが、その不便さがかえって好評であったようで若い人も結構やって来た。滋賀においても、美しい環境の中、滋賀ならではのリソースをもっと集客に利用できないのか。それと、食と展覧会企画をうまくリンク（例えばヨーロッパ絵画と当時のフランス料理）できれば、もっと一般の人が楽しめる展覧会になる。静かで環境のいい美術館だけではもの足りない、何か展覧会とセットで楽しめる企画を期待する。

【委員】

財政難の中、白洲正子展に沢山の人が観覧に来たのは、前年に放送された白洲次郎のドラマの影響も多分にあり、以前からの白洲正子ファンに加えて、ドラマを見た一般の人も関心をもったことも一因ではないか。私の小学校の職員室でも話題になったぐらいで、やはり話題性が大切である。滋賀の地域と関わった、しかも知名度や話題性があるものとのリンク、また、テーマとして滋賀の自然や環境をもっと使えないか。そういった意味で、里山をテーマとした今森光彦の写真展なども取り上げてほしい。

【委員】

集客のことだが、親子で活動するものにとって琵琶湖博物館の方が利用しやすい。当初、琵琶湖博物館の来館者が大変多く、あまり利用しなかったが、博物館には、当然、いろんな魚があり、それだけでなく親子で楽しめる場所や子どもたちが楽しめるスペースもたくさんあり、親子で楽しめるようになってきている。お弁当を持って遠足となるとどうしてもこうしたところを選んでしまう。小さい子には美術は難しいかも知れないが、子どもなりにいろんな楽しみ方がある。親子で楽しめる空間があれば、親子連れの来館は必ず増える。

【委員】

連携という意味で言うと、県の北に住んでいるが、文化に触れる機会に乏しくビデオによる映像でもいいのでいろんなところへの発信を是非ともお願いしたい。余呉町でも小さなギャラリーがある。そういったところとの連携もお願いしたい。

【委員】

やはりここは車がないと不便で、運転免許がない者が交通機関を利用するにも大きな負担となる。先ほど割引券について説明されていたが、交通機関とも連携して乗車券と観覧料とが割引になる仕組みを考えて欲しい。

【委員】

県内の小学校でのいわゆるバス遠足旅行だが、びわこホールなどと一緒にルートを作り、各学校に売り込んだらどうか。私も湖北の出身だが、県民性あるいは地域性なのか文化に対する関心が今ひとつのような気がする。そういった意味で地元の若者層への取り組みを考えていってほしい。

【委員】

それとレストランだがパンの販売もいいが、他府県からの来館者のことも考えると、滋賀の食文化を紹介できるレストランがあればと思います。

(4)平成23年度事業計画(案)について

【委員】

開催期間が50日とか56日とか長いものは、展示替があるのか。

【事務局】

ヨーロッパ絵画や五味太郎は会期が長いが展示替はない。次の仏像展は、重要文化財など公

開できる日数が制限されているものもあり、その部分については展示替が必要となる。

**【委員】**

作品のジャンルにもよるが、どうしても展示替が必要となる。ご不満があることは承知している。今やっている上村松園展もそうであり、東京（国立近代美術館）の方でも開催しており調整を余儀なくされた。

**【委員】**

展覧会には自主企画と巡回展があるとお聞きしましたが、ヨーロッパ絵画展や五味太郎展はどちらになるのか。それと、白洲正子展ではNHKが共催となったが、来年度共催してくれるところは決まっているのか。

**【事務局】**

どちらも巡回展である。また、共催の件だが、新聞社には必ず入ってもらっており予定している。放送局の場合は頼んでも難しいようだ、白洲正子展でのNHKは例外である。広報面から言って入ってもらう意味は大きい。

**【委員】**

仏像展の際、来年のNHK大河の浅井三姉妹とのからみはあるのか。

**【事務局】**

時代が違っており難しいが、仏像展は、大津市歴史博物館およびMIHO MUSEUMとの一体的な取り組みでもあり、どこかでかするのかも知れない。

**【委員】**

NHK日曜美術館で取り上げていただければ、来館者数は増えるので是非ともお願いしたい。

**【委員】**

来年度より新教育課程が始まる。学力となると、国語、算数となり、まして小学校にも週一回外国語が入ってくる。そうしたことのしわ寄せは、図画工作に来ることが多く、今回の改訂よく残ったなあというのが正直な感想である。そんな中、今までの作る描くことから鑑賞教育を大事にすることや大人になってからの生涯教育として美術館などへ出かけて行くことなどが取り上げられている。その中で、学芸員などの専門的な知識を生かすことなどがうたわれており、10月2日平田主任学芸員に協力していただき、「美術鑑賞のはじめの一步」というテーマで土曜研修を実施し、参加した先生方からは大変好評であった。学校現場としても美術館などと連携してやっていきたいと考えておりますので、ご支援をよろしくお願いしたい。貴重な時間をいただき学校教育の立場から報告させていただきました。